



〈作品概要〉

■タイトル／邦題「バグマティ」英題「Bagmati River」 (仮)

■尺／25分想定

■監督・脚本／松本優作

■撮影時期／2019年初旬予定

■撮影場所／日本、ネパール（カトマンズ）

■言語／日本語、英語、ネワール語



〈映画のはじまり〉

人は大切な人を失った時、何を救いに生きていくのか——

僕にとっては映画を作ることが自分自身の生きる糧となり、大切な人の死を受け入れる心の作業なのだと感じました。

僕は中学生の頃に大切な友人を自殺で亡くしてしまいました。その人の死を自分自身が受け入れるために制作したのが初の長編映画「Noise」です。

映画を作る過程で、友人の弔いを自分なりに時間をかけて行ってきました。

今回企画した映画「バグマティ/Bagmati River」は大切な人の死を受け入れようとする人の物語です。

そして僕自身が、今年不慮の事故で命を失ってしまった友人の死を受け入れるための映画でもあります。

この映画を作ったからといって、実際のところ友人の死を受け入れる事ができるかどうかは正直わかりません。そこまでして映画を作ろうとすることが、理解できない人もたくさんいるかと思います。でも、どうしてもこの映画を作らなければ僕は前に進む事ができないのです。

松本 優作



〈プロット〉

3年前に恋人を不慮の事故で失った植月達也（30）は、日本を離れネパールでボランティア活動を行っていた。

ヒマラヤ山脈に近いこの国は昔から人々が優しく、ヒンズー教と仏教が仲良く両立できる暖かい国民性を持つ人たちが暮らしている。植月は日本が失ってしまった大切なものがネパールには残っていると感じていた。

植月はボランティア活動を通じて、「大切なモノの再発見」というのが活動のテーマだった。植月は自身の活動をブログに投稿し、生きることに絶望している日本の人々の希望の光となっていた。

南由佳（25）は日本で植月の活動を影で支えていた。数年前、由佳は私生活で絶望の淵にいたところ植月の活動を知り元気付けられ生きる希望を抱いたのだった。由佳は植月の活動を心の底から応援していた。

そんな植月のボランティア活動中、大規模な災害がネパールを襲う――

植月は取り残された子供を救出するため被災地に向かったのを最後に行方不明となってしまう。ネパール政府によって懸命な救助活動が行われたが植月を発見することはできなかった……やがて生存の確率は0%とされ、捜索は打ち切られた。消息が最後に確認された11月10日が植月の命日となった。

由佳は植月が亡くなったことを知らされ、居ても立ってもいられなくなりネパールに一人で向かう。由佳は植月の遺体捜査をネパール政府に依頼するが、捜索の難しさ、生存率の低さが理由で断られてしまう。

植月の遺体を発見することができない今、由佳は植月に対して祈る場所がなかった……

途方に暮れ、カトマンズの街を彷徨う由佳。やがてガンジス川に合流する河川「バグマティ川」へと辿り着く。由佳は川岸に建てられたネパール最大のヒンドゥー教寺院「パシュパティナート」（火葬場）を訪れる。

そこで由佳は、ガンジス川の支流、聖なるバグマティ川の水で、死者の体を清めるヒンドゥー教徒の光景を目撃するのだった……



ネパール最大のヒンドゥー教寺院「パシュパティナート」（火葬場）